

肥田舜太郎さん講演会＋(肥田さん×自由の森学園生徒などクロストーク)

「これから」を 生きてゆくために －内部被ばくといのちのことから考える

いっこうに収束しない福島原発事故――

いま、外部被ばくだけでなく内部被ばくについて、大きな不安が広がっています。そもそも内部被ばくって、どうなるってこと？

いのちと放射能はつきあっていけるの？

1945年の「ヒロシマ」以来、被ばく者のこと、内部被ばくのことを深く考え訴えて続けてきた肥田さん。2011年の「フクシマ」で

あらためて放射能と内部被ばくのことを考えはじめた世代。直接のやりとり

から見えてくるものは…。



2012

1月25日(水) 13:30-16:00

自由の森学園中学・高校 大音ホール

(埼玉県飯能市小岩井 613 番地 TEL. 042-972-3131)

※駐車場が大変狭いため自家用車での来校はできるだけお避けください

●参加費は無料です

主催 「肥田舜太郎さんの話を自由の森で聴く会」 実行委員会

共催 自由の森学園食生活部

問合せ 山田 E-mail; mikiho-y@fc4.so-net.ne.jp TEL 048-443-2019

この世界を自分たちがどう生きていくのか、 悩み、考えていた私たちと肥田さんとの出会いは、 なかば必然のことでした

はじめりは保護者、…そして 「わたしたち、ひばくなう？」

福島第一原発事故直後、私たちの自由の森学園でも放射能に対して言いがたない不安が広がりました。すぐさま保護者と学校が話し合い、いち早く、校内各所の放射線測定や、事実上のオーガニックレストランである学食の食物安全性を考えるなど対応をすすめてきました。

しかし、マスコミなどで「安全だ、健康に影響ない」論がふりまかれるなか、「大丈夫、心配ないよ」という気分も広がっていました。「だって、見えないんだもん、わからないよ」。

こうしたなか、肥田さんの話を聞いてみたいと、保護者企画の実行委員会が動きだしました。

わたしたち「ひばく」なう？ VOL.2

自由の森学園中学

・高校では、生徒の自立的な活動が非常に盛んです。大きな学校行事である公開研究会でも、生徒が主催する分科会が多くあります。2011年度は大震災や原発事故を受けて「わたしたち、ひばくなう？」や震災を問う生徒分科会に参加者が多く、外部への反響も大きいものでした。



「問題を子どもの目線からもっと深めたい」。今企画には、そうした高校生たちの「生徒モード」も加わってきました。講演会にプラスして、生徒はじめ会場参加者による異世代クロストークやセッションという形を予定するもの、当日までにどう進化するのか、楽しみです。

◎本企画に賛同します

- 自由の森学園保護者 / 伊藤美奈子、上前昌子、郡司美和子、佐藤 智、富山つねお、菊池千恵子、板垣規子、佐和さつき、前川知子、鈴木宏子、長島紀江、三宅 豊、樫山 慎、佐々木千代、山田未来穂
- 自由の森学園教員 / 鬼沢真之、菅間正道、大江輝行、内村政子、新井達也、藤原 敏、田上麦文、菅 香保、蒔田豊明、内沼 博、赤田 浩、永島 梓、原 裕子、齋藤理子
- 和光学園保護者 / 小野田和弘、小野田久美子、中島浩代、若月恵理子、三浦 巖、仮屋淳子、牧野英世、牧野 薫
- 和光学園教員 / 両角憲二(和光中学・高校校長)、園田洋一(和光鶴川小学校校長、和光鶴川幼稚園園長)
- 協力 質内麻由子

掲載は大人分のみとしています。広報制作のタイミングから掲載できなかった他の賛同者のかたについては、おわびするとともに、講演会当日にご紹介させていただきます。

※今企画の実現に向け、和光学園(東京・町田市)の保護者の協力をいただきました。御礼申し上げます。

肥田舜太郎さんってどんな人？

肥田舜太郎(ひだ・しゅんたろう)

1917(大正6)年広島市生まれ、埼玉県在住。1944年より医師として広島陸軍病院に勤務。

原爆投下の当日から被ばく者の治療にあたり、自らも被ばく者となる。2009年で引退するまでに6000人をこえる人々の診察を続けるなかで、直接的な被ばくによらない(内部被ばく)の



症状に着目、はやくからその危険性を訴えてきた。2011年の東電福島第一原子力発電所の事故以降、さまざまなメディアで発言するほか、自らの経験と命の守り方を次世代に伝えるため全国で講演活動を行なっている。

著書に『内部被曝の脅威』(ちくま新書、鎌仲ひとみ共著)『ヒロシマを生きのびて一被爆医師の戦後史』(あけび書房)他多数、出演映画に鎌仲ひとみ監督『ヒバクシャ世界終わりに』やS・オカザキ監督『ヒロシマナガサキ』がある。



私立 自由の森学園中学・高校について

点数序列のない、競争原理を廃した中高一貫校として、1985年に開校。高校の卒業生は5,000名をはるかに超え、現在も約700名の生徒が学んでいます。生徒一人ひとりを大切に、自立した自由というものを獲得していく人間形成を目指し、「無責任な自由さ」ではなく、教師と生徒がともにつくる少人数クラスでの質の高い授業、生徒がほとんどすべて自立的につくっていく行事などを通じて「深い知性」「豊かな表現」「等身大の体験」をはぐくむ学校として知られています。

そのため、全国、海外やいわゆる帰国生まで、多様な個性がつどいあう学びの場となっており、学生寮も完備しています。

- 学校の様子や行事など、くわしくは学園公式ホームページをごらんください。 <http://www.jiyunomori.ac.jp>